NEWS RELEASE

令和元年１２月２０日資料配布

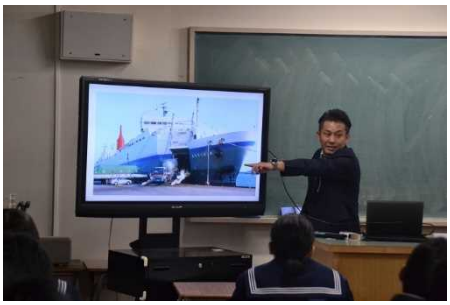
国土交通省 神戸運輸監理部

海事振興部

貨物船乗組員の労働環境を知って進路選択へ
～地元海運会社が若手人材を求めて出前授業～

神戸運輸監理部は、職住一体となって働く貨物船の乗組員の仕事や待遇などを知ってもらい、将来国内貨物船の船員を目指す若者を育てようと、12月12日、神戸の海運会社の協力を得て同社社員が初めて兵庫県立香住高等学校で出前授業を実施しました。

講師を務めた加藤海運株式会社の小嶋寛也さんは、一口に貨物船と言っても自動車運搬船や油送船など様々な専用船があり、貨物の種類に応じた積み卸しが行われていること、自社が扱う貨物船は家畜用の飼肥料や紙の原料となるチップ、ロール紙、鋼材、などあらゆる貨物を運んでいることを説明しました。意外な貨物としては、神戸の川崎重工でつくられる新幹線、１本２千万円弱もする巨大タイヤ、大阪海遊館向けにプールごと運ぶジンベイザメがスライド画像で映されると「エーっ、スゴい」と驚きの声があがっていました。



船の種類を説明する小嶋寛也さん

船員の仕事を説明する大塚臣介さん

続いて同社の大塚臣介さんからは、基本的な船の乗り組み体制と1人（見張り要員）を基本に4時間働いて8時間休む当直体制をもとにした勤務時間、役職ごとの業務内容、船員居室や食事のことなどを説明しました。とくに、給与については大型フェリーの船長クラスになれば年収1千万円も夢ではないが、通常の国内貨物船ではそこまではいかないにしても、同年代で陸上で働く人よりも高いことなど、みんなの関心の高い話題もしっかりと組み込んで話しました。

神戸運輸監理部では、平成27年度から同校に対して出前授業や地元海運会社の協力を得てインターンシップ受入事業を実施しており、今後とも学校及び関係者の協力を得て内航船員の人材確保育成に向けて取り組んでいきます。

兵庫県立香住高等学校

県内唯一の水産系コースを設置している高校で、海洋科学科の生徒は2年次から船員を養成するオーシャンコースを含めた3つのコースのいずれかを選択しコース別授業が行われる。現在、生徒の4分の3は地元以外からの出身者で、卒業後は内貨物船会社への就職や上級海技士免状取得を目指して海技教育機関に進学する。

配布先
神戸海運記者クラブ

問い合わせ先

神戸運輸監理部　海事振興部

担当：塚本　電話：078－321－3149（直通）

海や船が「楽しく身近な存在」になるための取組み。

C to Sea プロジェクト

ポータルサイト「海ココ」→